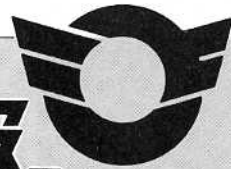
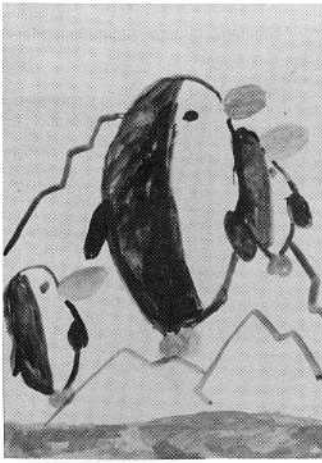


保育園からこんにちは

ペンギン

やすえゆうちゃん(六歳)下親田

神土保育園



広報 ひがししらかわ

No.345 11/15

発行 東白川村 ■編集 東白川村企画課 ■〒609-13 岐阜県加茂郡東白川村神土648番地
 ☎05747>8-3111・内線26 ■印刷 益田郡下呂町 下呂印刷株式会社



気持ちのいい汗をかいたあとは、すばらしい笑顔がほころびます

人口の動き

サツキを植え基幹農道完成を祝う！

農業生産基盤の大動脈である基幹農道は、総延長にして約12.4km。その内5.7kmが、今年度完了します。

10月29日には、神付地内を走る基幹農道の完成を祝い、地元関係者ら40人が出て記念植樹が行われました。

延長893mの沿線には、提供されたサツキ苗360本が植え付けられ、地域の温かい管理によって、来春には美しい花を咲かせてくれることでしょう。

—10月末住民登録人口から—
世帯数……………915世帯
人口……………3,539人
転入……………6人
転出……………3人
出生……………4人
死亡……………5人
先月と比較して2人増
昨年と同月と比較して33人減



越冬に備え、たい肥とワラ
を与えるみんな



「ドスン」という轟音とともに、大地に横たわる大木。樹令八十四年、樹高三十四メートルあるスギ（写真＝左）が、下親田の古田吉一さんの巧みな技術で、ねらいを付けた林道と岩の

山は今では高度な技術

山の神を祀る……家庭でも大切なことですが、山の多い私たちの村では、そこで働く人たちが最も大切にする神様です。特に大きな木を倒すときには、手を合せ、時にはお神酒を供えて働く山の男たち、その実態の中から現在の林業がかかえている課題を探り、考えてみたいと思います。



村の林業を考える 3

山で働く男たち

……その現状と将来……

わずか二日のすきまに、一部分の狂いもなく切り倒されました。「質の良い木ほど芯が抜けやすいから、切るときは精神を集中しないと、高価な木をだいたしにするばかりか、事故にもつながる。思いどおりに、傷一つつけないで切り倒したときは、

とにかくホッとすめるだけだね」と、大径木になるほど柚は熟練した技術が要求されます。昔から、

● はん堤の建設で切り倒されることになったスギ

主要産業が林業であったこの村ですら、古田さんのような技術を持った人はわずか数人となりました。

山肌に岩が顔を出し、しかも急傾斜な地形での作業が、切る側にとっても、もし失敗したら……という責任の重さから柚という伐採作業を敬遠させるのでしよう。

もつとも、伐採を頼む側にとってみれば、熟練者に依頼するのが常で、若い人にチャンスが回ってきません。

「昔は伐採専門、搬出専門で仕事ができただけだが、今ほどの分野も掛け持ちになってしまった」という古田さん。搬出専門で「半方」を

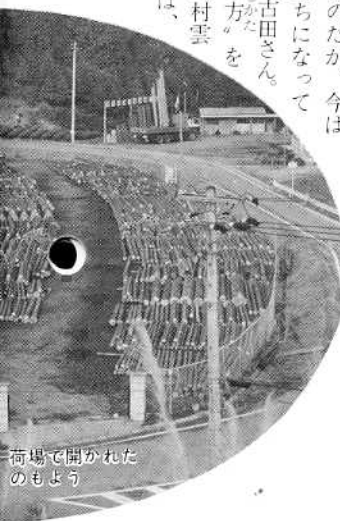


安全第一

「架線の操縦は無類とチームワークが作業のポイント」「人があれば能率も半減する」

安江千之さん(59)下親田

「もう私たちの代で終りだろう」と村でわずか四人になった半方の将来を予測されますが、このように山林の伐採、搬出作業は、いまでは、特殊な技能分野になってきているようです。



● 荷場で開かれたのもよう



1本の

木が切れるまで

感謝と安全をお祈りしてお神酒をさげる 古田吉一さん(55)



③受け口が完了



②受け口を作るために30~40°で斜め切りをする



①伐倒方向を決め樹心に向けて水平に切り込む

あなたの山にも伐期がやってくる

現在、村内で伐採される木材の量は、年間七千八百立方メートルと木材蓄積量の〇・七割に当たり、その内訳は、主伐が七千立方メートル、間伐が八百立方メートルとなっている。

伐採し搬出された木材は、その六十割が森林組合の集出荷施設へと持ち込まれ、毎月一回共販市にかけられます。

そのほかの材は、村内十六の製材業者や素材生産業者によって村外へ出荷されています。

木材の材積を表わす立方メートルという単位では、どれほどの量が理解しづらいと思います。そこで、下段中央の木材市場の写真

をご覧ください。

ここに並べられた木材の量で三百三十八立方メートルあります。前述した年間伐採量七千八百立方メートルという量は、この二十三倍ということになりました。

高齢化が進む林業従事者

では、これだけの木材を伐採し搬出するまでに、いつたい何人の就労者が携わっているのでしょうか。

村の統計資料によると林家戸数は五百九十三戸。その内、一日以上山仕事に出る人が、男女合わせて四百五十人となっています。

伐採や搬出に携わる仕事は、専業でない出来な仕事ですから年間百五十日以上山で働く人を調べてみると、わずか四十七人しかいません。

しかも、林業従事者全体の八十割が五十歳以上の高齢者なのです。

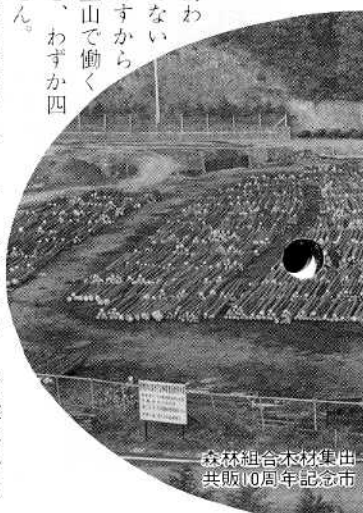
つまり、専業従事者を除いた四百三人という人は、兼業で保育の施業に携わっていると考えてよいでしょう。

専業で行える林業従事者の定年を六十五歳とし、後継者がなかった場合を想定すると、十五年

年後には専業従事者が十二人という状態を迎え、一番若い人で四十歳となります。

年間伐採量の内、主伐八千立方メートルを行うためには、年間二百日以上働ける専業従事者が三十九人必要という計算になります。つまり、現在のまま進めば、最低二十七人の従事者が不足するということです。

しかも、ここでいう三十九人は、どの分野の仕事もこなせる



森林組合木材集出荷10周年記念市



今ではほとんど見られなくなった木馬での木材搬出

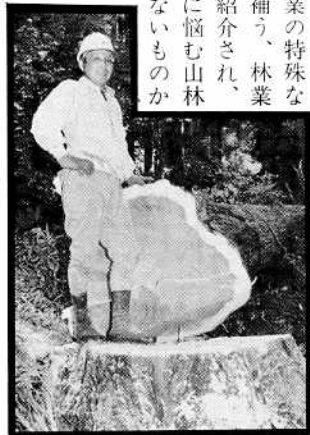
松岡 諱さん(54)陰地

将来は現在の主伐伐採量より二千万立方メートルに増えることが予想されます。

そんな状況の中で十月二十七日、可茂管内の町村を対象にした間伐講習会が、神土後山の村有林を会場に開か

れ、間伐推進員をはじめとした六十人の関係者が参加しました。

この講習会では、間伐のポイントのほか、林内作業の特殊な技術や労力を機械で補う、林業界の新鋭機械三台が紹介され、高齢化と労働力不足に悩む山林作業の助っ人にならないものと、その性能や特徴に期待の目が向けられ、試運転に熱がこもりました。



ホットしたあとは笑顔が



⑥ 追い口が浮きはじめてから安全を見届けて待避



⑤ 適度なつるを残し追い口をさらに切り込む



④ 追い口を切り2本のくさびで伐倒方向を確定する



機械の力をうまく生かしたい

まず、牛方
(写真1上)

の作業に相当する搬出機械から紹介しましょう。

左中央の写真をご覧ください。これは、新発売のマウントボニーと呼ばれる林内作業車で、キャタピラで移動します。



「三日月の便利店」で撮影を博したマウントボニー

この機械は、集材のために傾斜地を登り降りすることができ、本機に取り付けられたウインチで前方、後方どちらからでも木材の引き出しが可能です。そして、右中央の写真のように、地曳き作業も容易にできます。小型ながら最大積載重量は、三百

と、まだまだ改良の余地がありそうです。

続いては、現在、木材搬出の主流となつて活躍している架線の小型機械を紹介しましょう。

ラジキャリーと呼ばれる木材の搬出機械(写真1中央左)です。架線の場合は、動力とキャレージ(荷を吊り、移動させる機械)が別になっていますが、ラジキャリーの場合は、それが一体になっています。

材を搬出するのに最適です。

現在ある種類は、二百器・四百器・八百器吊りの三種類があります。

そして、もう一台の機械は、枝打ちロボット(写真1中央右)です。



小型ながら馬力があって使いやすい

これらの機械は、全国的にみられる林業従事者の高齢化や、従事者の不足といった問題から、若年労働者の参入をねらいとして開発されたものです。

こうした機械化は、手軽な作業分野から開発が進んでいます。果林業センターによれば、近い将来には高度な技術を要する作業も、機械化される目どがついてきている

そうです。このような機械化が、若い人の心を山に向けることができるのか。



「生れ変わっても、仕事は林業を選ぶね」
下親田 村雲芳己さん(58)

山は銀行と同んなじだ

村の間伐指導員でもある、下親田の安江正徳さん(37)にかがってみました。

安江さんが、山仕事を始めたのは十八歳のころ。その当時は高度成長の時代に当たり、現在と同じように魅力のある働き場所がいくらかでもあったところに、あえて山仕事を選んだのです。

そのキツカケは、ある日、お父さんと山仕事に出かけたときのこと。「お前に買ってやった車はなあ、あそこの木を売って買ったんやぞ」という言葉を耳にしたとき、山のありがたさを感じて山仕事を決意したそう

です。「車という形の先銭をもらったで、山の手入れはその分割払いやと思ってやつとる。しかし、銀行のように振込みの請求がされないからと安心しとってはいかん。山は、手入れを請求していることを忘れんようにせんとなあ」

若い人に関心を持たせるには、「あそこの木をお前にやるで、自分で切り出して小遣いにしてみよと、まずお金になる木を持たせて山のありがた身を感じさせることだろう」

そして、「お前が結婚したとき木を切つたで、たまには山へ行けよなあ、と話して聞かせることも大事なことだ」

安江さんの話は、資産としての山をうまく生活に生かすことと、上手な山とのつき合い方を体験の中から語って、今の若い人たちにも説得力があります。



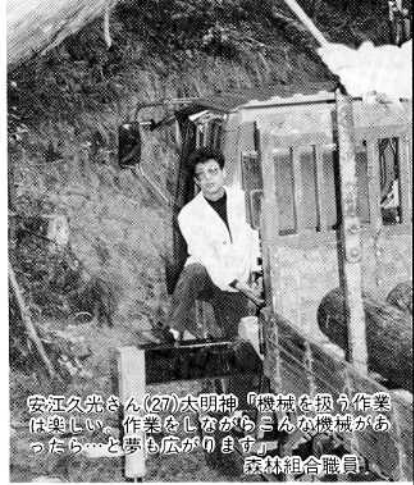
枝打ちロボット



村雲辰彦さん(25)下親田
「山仕事は自分にピッタリ、思ったより苦しくないです」



松岡正道さん(23)陰地「山を生業の仕事に選んだのは財産は自分で守るんだと決心したから。辛いけど自然がやさしく包んでくれる。からスギです。」



安江久光さん(27)大明神「機械を扱う作業は楽しい。作業をしながらこんな機械があったら...と夢も広がります」

安心して働ける条件がほしい

そんな話のなかで、課題として指適されたことは、雇用条件を一般の企業並みにしない限り若者を呼べないだろうということでした。

山で働く人たちは、そのほとんどが日雇いです。休みといえは雨の日で、いつやってくるかわかりません。雨が降り続けば働くこともできず、当然収入に響くことは免れないことです。この家庭でも、毎月一定の収入がなければ困るのは同じです。働けず収入が減ったとすれば、ガムシヤラに働いてでもお金を作らなければならず、そこに思わぬ事故を引き起こすとも考えられます。

現在、若者の間では、「三ない言葉」というのが流行っているとか。これは、就職を決める場合の会社の条件で、「危ない！汚ない！休めない！」という会社には入りたくないという意識が強いのだと聞かれます。今の林業の場合、この「三ない」がすべて該当している



お父さんについて山へ行くのがなによりも勉強になる

ます。

若者が持つているこのような考え方に対して

「最近の若い者は」と首をかしげる方もおられることでしょう。しかし、ゆとりのある豊かな生活を求めるためには、避けて通ることのできない条件ではないでしょうか。

新しい林業への提案

作業の機械化、雇用体制の改善という課題について、間伐講習会が終了したあと推進員のみなさんにうかがいました。

「ここ数年、いろいろな機械が登場した中でこの新しい機械は確かに実用的であるが、これを各林家が買い求めたとしても農業機械のような過剰投資につながって

早い時期に、機械化組合を設立する必要があるだろう」

雇用体制につ



ラジキヤリ

て森林組合では、「国有林の作業を森林組合が受ける分も含めて、仕事は充分にある。作業班を月給制にし、福利厚生も充実させた雇用体制を理事会で検討している」ということでした。東白川村の林業を考えるシンポジウムをやるう...という意見もあります。

村づくりの重要な分野としてこれからの林業をどうするか、皆んなで考える機会を持つことを提案したいと思います。

功績たたえ顕彰碑除幕

十一月七日、故松岡正平氏が築いた山林振興への功績をたたえ、地元集落陰地と森林組合が発起人となつて、顕彰碑の除幕記念式典が盛大に取り行われました。



森林組合の木材市場に建てられた顕彰碑

■戸籍の窓
十月 敬称略
誕生おめでとう
ございませう



- (中通) 今井孝司 由実
- (平) 大坪孝由 隆吾
- (大明神) 三戸行美 拓実
- (柏本) 古田俊之 詩織



いつでも
おしあわせに

- 丹羽 清隆 (岩倉市)
- 安江 幸子 (日向)
- 安江 雅次 (日向)
- 安江 美紀 (上親田)
- 西野 義朗 (福井県鯖江市)
- 馬淵ひろ子 (栃山)



おくりやみ
申し上げます

- 粥川ふじゑ 73歳(陰地)
- 河田きり江 63歳(黒洲)
- 安江まさの 90歳(中谷)
- 安江 敏夫 85歳(平)

■善意の寄付 敬称略
←次ページへつづく

みんなの力で支える大きな保障

国民健康保険

病気やケガは、ほとんどがある日突然私たちを襲ってきます。こうしたとき、お金がなくてお医者さんにかかれないうとしたら大変なことです。それが大病や大ケガだったら、はかり知れない経済負担を背負わなければならないでしょう。こうした事態に備えて、ふだんからお互いが収入に応じてお金を出し合い、いざというときに面倒を見合う仕組みが国民健康保険制度です。

こんなときはこんな給付が：

国保にはいつていると、お医者さんにかかったとき、医療費の三割は本人負担となりますが、残りの七割は国保が負担しています。(退職者医療制度の該当者は、本人負担が二割(三割))

からだに異常を感じたときはいつでも国保で診療が受けられ、治療に必要な処置、手術、その他の治療がすべて受けられます。

また、一人一人が一つの病院や診療所へ支払う医療費の自己負担額が一月五万七千円を超えた場合は、その超えた分について払い戻しを受けられます。

ただし、保険診療の対象とならない、入院したときの差額ベッド代や、完全看護の病院へ入院したときの付添い看護料などは自己負担分の中に入りませんのでご注意ください。

急病で国保を扱っていない病院へかつきこまれたとき、また旅先で急病にかかり保険証を持ち合わせていかなかったようなときは、全額自己負担となりますが、やむをえなかったと認められる場合は、あとで払い戻しを受けられます。

このほか、加入者が出産したときは助産費が、また加入者が亡くなったときは葬祭費が支給されます。さらに、七十歳以上(ねたきりのお年寄り)は六十五歳以上)の老人保健にあてられます。

国保をささえる

保険料

みなさんの医療費の約七割については国保が負担していますが、その財源は国の負担金とみなさんに納めていただく保険料でまかな

われています。

保険料を納めていたかどうか、国保制度は崩れてしまいません。保険料を納めることは被保険者の義務です。期日までに必ず納めるようにしましょう。

保険料を決める場合、まずその年の医療費がどのくらい必要かを予測し、その中から国が負担する分(医療費の約三九%)と患者が負担する分(三〇%)を除いたもの(医療費の約三二%)を保険料として各世帯に割り当てられます。

保険料は、①各世帯の収入に応じて計算される所得割、②一世帯にいくらと計算する平等割

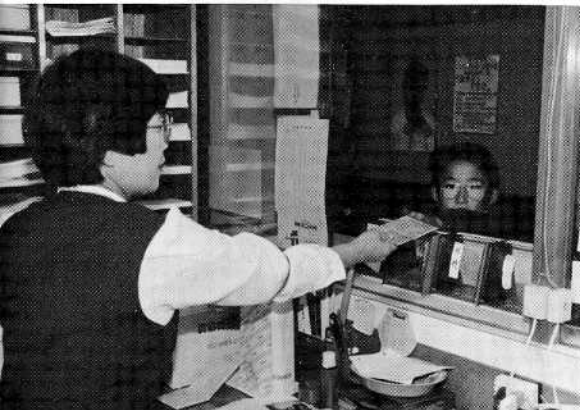
③加入者数に応じて計算する均等割、④世帯の資産に応じて計算される資産割……この合計額が一年間の保険料となります。

十二月一日から新しい保険証

現在みなさんが使用されている国保の「被保険者証」は、この十一月三十日で有効期限が切れます。新しい保険証は、これまでとほとんど同じですが、一般被保険者はオレンジ色、退職被保険者はみず色の保険証となります。

有効期限は、平成元年十一月三十日から平成三年十一月三十日までとなっていますので、これからお医者さんにかかるときは、この新しい保険証を使用してください。

この保険証の配布については十一月二十日から各地区の会場へ出て、現在の保険証と引き換えにお渡しします。古い保険証を紛失された方は、再交付申請書の提出が必要ですので印鑑を持って会場へお出かけください。なお、配布会場、日程などについてはチラシや有線放送でお知らせしますので、当日都合の悪い方は必ず十一月中に役場で古い保険証と交換してください。万一に備え、出掛けるときは保険証を持ち歩くように心がけたいものです。



〔社会福祉器具指定寄付〕

現金五万円―河田きり江(黒瀬)・現金八千八百五十円―

〔東白川中学校へ〕

緑茶三十八器―東白川村茶業振興会・スライド写真機一台

―山田統造(白川町)・元東白川中学校教諭)・川砂二m²―

新田久(加舎尾)

〔東白川小学校へ〕

サンケイカラー写真ニュース一年分―新田久(加舎尾)・

緑茶三十五器―東白川村茶業振興会

〔神戸保育園へ〕

緑茶十五器―東白川村茶業振興会

〔越原保育園へ〕

緑茶十五器―東白川村茶業振興会

〔五加保育園へ〕

緑茶十三器―東白川村茶業振興会

〔教育振興指定寄付金〕

現金三十万円―今井光春「故今井透先生(平成元年八月十六日死去)」が、教育功労者として勲五等双光旭日章を授与されました。その記念として寄付をいたしましたものです

■お詫びと訂正

先月号の寄付の欄で、神戸小学校とあったのは、東白川小学校の誤りでしたので、お詫びし訂正します。

咲かせ 実らせイメージ一新!

立村100年 梅苗記念植樹

「梅に鶯」ということわざは、取り合せのよいものを表現した言葉です。

そして、立村百年の記念植樹に選ばれた実のなる木は、「東白川村に「梅」。

と決定し、花が美しく、かおり高いウメは、古くから早春の風物詩として人々の心をなごませ、親しまれてきました。

この記念植樹は、村と東白川農業協同組合が主催し、東白川村土地改良区の協賛で行います。各戸に配布する梅苗は、二本小梅で授粉樹の役目を果たします。

そのほか、一粒三十センチほどの実をつける白加賀と名塚の普通の品種、各一本ずつです。

花色は、いずれも白。ウメのかおりが村中に漂い、白い花に包まれる日を想像してみてください。結実した実は、自給用の梅干しのほか、アイデアを凝らせば、実益につながる商品開発も夢ではありません。

この苗の配布時期は、平成二年の三月ごろを予定し、各集落の組長さんを通じて配布します。今から、植え付ける場所を選定しておいてください。



庭先に植えられた梅の古木

飛驒牛をめざして共励会

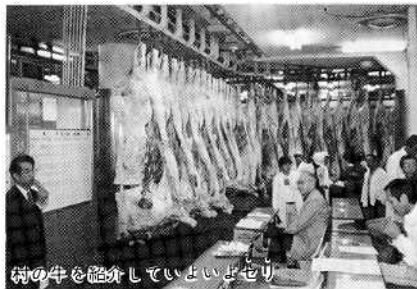
十月九日、立村百年を記念して行われた東白川村肉牛枝肉共励会が、名古屋市中川区の高畑中央卸売市場で開かれました。

この共励会は、村内の肉牛生産農家が、丹精こめて育てあげた牛を枝肉にし、歩留りと肉質の二部門について

専門家の審査を受け、等級と順位を決めるもので、生産農家の技術向上をねらいとして開催したものです。

この日、金賞一席に入賞した中通高井吉男さんには、村長賞と副賞のトロフィーが贈られ、出品枝肉に「飛驒牛」の称号が付けられセリにかけられました。

飛驒牛の称号は、肉質の良い優良牛にだけ与えられるもので、市場ではA-5という規格に値します。これを販売価格で見ると、一頭当たり八十四万円のところ、飛驒牛となれば百万円以上の値が付くことから、消費者にとっては高嶺の花となる



セリ場を介してよい肉質の牛

わけですが、安心して買うことの出来るブランドともいえます。現在、村内十八戸の農家で飼育されている和牛は、約五百頭。優れた肉質と脂質のある和牛を生産するために、その技術研究が盛んに行われています。

生産農家にとつては、輸入牛肉の自由化など先行きの畜産情勢の不安を解消するためにも、飛驒牛の生産を目指して経営の安定を図ることが必要になってきています。

村で生産された牛のほとんどは、生体で関市場へと出荷され取り引きされています。生体については枝肉にしてみないとわかりませんが、肉質については枝肉にしてのままで、自信のある取り引きを行うためにも、こうした共励会が重要になってきます。

共励会の主な成績

- 金賞一席 高井吉男 (中通)
- 金賞二席 高井吉男
- 金賞三席 今井建夫 (宮代)
- 金賞四席 松島勇次 (中谷)
- 金賞五席 安江康助 (上親田)

劇団「はなの木」旗上げ

会員募り来秋発表めざす

このほど私たちの村に「劇団はなの木」新劇研究会が発足しました。

この研究会は、かつて青年演劇に活躍し、境谷事件を題材にした創作劇などを生み出した人たちが中心になって、今後、村の歴史上の大きな出来事を、何本かの創作劇にまとめて、後世に伝えたい。

そして歌舞伎愛好会とタイアップしながら親しまれる郷土演劇として定着させたい……という願いで結成されたものです。

昨年の未来博では、私たちの村は「魔仏殿釈」の歴史を織り込んだ創作イベントを上演し大好評を得ましたが、村の歴史や風習などが演劇という形で伝承されることは、活字や映像と違って、生きた文化活動として私たちの村をより豊かにしてくれることでしょう。

劇団はなの木の旗上げ公演は平成二年の秋に予定され、いま村内からの同好の志の参加を呼びかけています。入会に制限はありません。希望者は上親田の大坪信也さんまでどうぞ……。

歴史の証言・立村百年の記録(第十七話)

「この味がいいね」と君が言ったから
七月六日は
サラダ記念日

これは神奈川県立橋本高校の教師であった俵万智さん(二七)の短歌である。

昭和六十二年五月、「サラダ記念日」と題するこの歌集が発売されたとたん、爆発的な人気を呼び二百万部以上の超ベストセラーとなった。

日本古来の短歌も、このような感覚で作られると、五七五七七のリズムも新しく感じられる。昭和五十六年五月の広報ひがしらかわに、当時の中学生の短歌がのっている。
●川をゆく 桜の花はあつまつて 仲良く遊ぶ さかなのよう
うに。(菊田かのえ)

まるでもぎたての果実のような新鮮な感覚だ。

この時、中学生の短歌の選者だった田口良三さんも、「心を洗われた」と書いておられる。

その田口良三さんは、長い間俳句と短歌を作り、昭和五十一年に第二十三回〇先生賞、五十六年に岐阜県芸術文化奨励賞を受けられた県短歌界の重鎮である。

大正時代は与謝野晶子、若山

牧水など、日本の歌壇は花盛り
の時代であり、その潮流をうけて東白川村でも多勢の人が歌づくりに親しんだ。

山峡にコンバインの音
響もして
世は移りけり
立村百年
—安江澄—
短歌に世相の移り変りを見る

当時村で発行されていた文芸同人誌「花の木」から抜粋してみよう。(大正十年作)

●麦蒔くと、ひたに励むかこれの世の、淋しき業に馴れそめにけり。(金尾秀之助)

●山田にて、稲蒔り居れば幼なる、妹はひとり、茶の花を摘む。(田口 盛松)

●たちねの、母と茶を呑む田の畦に、昼の蟋蟀いくつも啼けり。(田口 良三)

短歌の奥深い味わいの中に、

麦を蒔き、稲を刈り、その田の畦で茶を飲む当時の村の農作業の風景が、目のあたりに思い浮かべられるではないか。

田口良三さんと並んで、中央歌壇に所属して多くのすぐれた歌を残した歌人に安江美郎(赤美・故)がある。

●時ならぬ、雪折れ梅が枝炬に焚けば、花より上る気遠き句ひ
(安江 赤美)

岐阜県歌人クラブ代表で、まさに岐阜県歌壇の大御所となつた田口由美さんも、東白川村出身で、昭和五十六年に長良川畔に歌碑が立てられた。

●聖職と、自ら持して安かりきわれら明治に生れたるもの
(田口 由美)

田口良三さん、安江美郎さんはともに神土中谷の人であるが中谷にはもう一人、忘れてはならない歌人があった。

●五十年を、経れば一本一百万円と、思ひつつ間引く、楡の実生を(樋口甲子郎・故)

神職のかたわら、苗を作り楡の植樹にいそしんだその汗が、今日の東濃ひのきを育てたのであろうか。

広報ひがしらかわに短歌の欄ができたのは昭和五十年、今日まで十四年間の作品から、村

の生活と時代を映すものを紹介しよう。

●茶刈機を、背負へば心も若やぎて、自動車免許も欲しき此頃。(安江友子、五〇年)

●雪虫も、紛れ飛びかふ北風に山の畠の大根を引く。
(村雲菊江、五一年)

●米穂るな、減反せよとの世の中に、落穂拾へり明治の我は。
(村雲伝三、五三年)

●着ぶくれの、野良着脱ぎしを桑株に、掛けて春肥、懇ろにやる。(早瀬勇造、五六年)

立村百年織り込み知歌募集
折から立村百年にあたって村内から寄せられた古い写真の中に、今はめずらしい四枚の写真があった。

この四枚を使って記念テレホンカードを作ることとなり、一枚に一首づつ、立村百年の文字と四季を織り込んだ短歌をつくることに挑戦した。

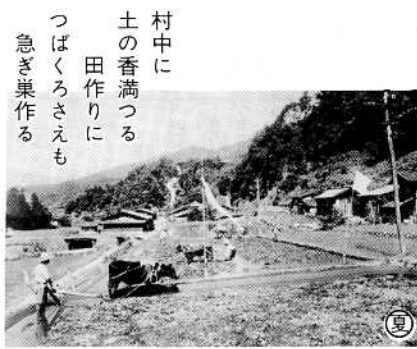
筆者の拙作は誠に心恥すかしが、村内の歌人に訴える。水車には雪が写っているから冬、田作りは夏(初夏)、あとの二枚は春と秋どちらでも良いという設定で、立村百年を歌い込んだ短歌か俳句を寄せられた。期待して待つ。(企画課へ)

立つ煙
うらら日射しに
うす秋の
炬端温くめし
恋の行方が

村中に
土の香満つる
田作りに
つばくろさえも
急ぎ乗作る

百年の
年輪重く
きしみつつ
木馬引きくる
紅葉くぐりて

年巡り
思い出巡る
みずぐるま
帰らぬ時の
雪の白さよ



レベル上った熱戦に大歓声

スポーツを通じたコミュニケーション・シヨンづくりをねらいに、家庭婦人を対象にした第二回村民さわやかビーチバレーボール大会が、十月二十五、二十七日の両日にわたって、東白川中学校と小学校の体育館を会場に開かれました。

は、家事を済ませて駆けつけた婦人ら総勢二百五十人の熱気で包まれました。

大会初日は、二回戦までの十回試合を行い、柏本・陰地A・平東A・神付・上親田・平西A・加舎尾・黒瀬傍山の八チームが三回戦に進出。

準々決勝に顔を出したチームは、どこも強豪揃い。応援席も総立ちになるほどの一歩も譲らないラリー戦が繰り広げられる中で、陰地Aと加舎尾チームが順調に勝ち進み決勝へ進出。結果は、加舎尾チームが、持ち前のねばりとチームワークで陰地Aを下し、みごと初優勝の栄冠に輝きました。

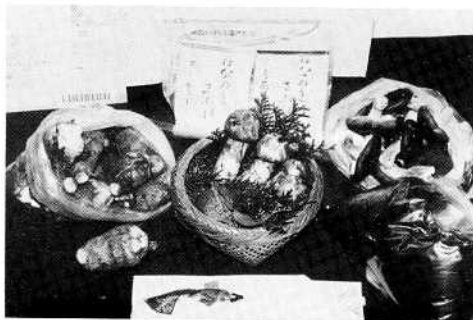
とけ込みやすく手軽く出来るスポーツとして、取り入れられたこのビーチバレーボールもすっかり定着し、今では村内七つのクラブが年間を通じて練習に励んでいます。

戦いに破れたチームの中には、「こんどは負けられない」と、来年に向けて早くも闘志を燃やしているところがありました。

成績―優勝―加舎尾・準優勝―陰地A・三位―平東A



3回戦 神付対平東Aの熱戦！



ごっつおー便「ハナノキ便り」

松茸どっさり30セット

「初めて手にした本物のマツタケ。とっても香りがよく、おいしくいただきました。できたらほかの産品も送ってほしいのですが…」と、ハナノキ便りをお届けした神奈川県鎌倉市の杉山さんから、うれしい電話が入りました。

今年、マツタケも不作とあって注文に応じきれない状態でしたが、生産者の協力もあって一セットあたりに三〜四本（八十〜九十グラム）のマツタケを届けられることができ、産直ならではのお徳なセットになりました。

発送先は、中部圏を中心に関東地区へと広がっており、ふるさと会員も二百六十五人とふくれ上がっています。

水稲作業に頼もしい助手！

せわしい秋の収穫作業も終わって、田畑もやっとひと休みといったところですが、今年の水稲作業を振り返って何か気づかれたことはありませんか？

商工会では、協同事業を研究し推進しようという目的で、昨年、村内十一社の土木建設業者が加入して土木建設業部会（安江三子男部会長）を設立しています。その活動の中で、異業種である水稲作業に労力と機械を提供して力添えをするといった、新しい形の協力体制が芽生えた

のです。

今年、機械化営農組合は、コンバイン（二台）、ライスセクターを導入して、水稲作業の機械化一貫体系を確立しましたが、その作業に携わるオペレーターが確保出来ない状況にありました。

田植え作業のオペレーター二人。コンバインで刈り取った稲を運搬する車輛（ユニック）と運転手の不足です。

その不足労力を、土木建設業部会から出そうということになり、加入業者十一社のうち五社から交替で二二名を植え作業に当てました。

そして、稲の運搬では、各社一日交替のローテーションを組み、運転手と運搬車を出すなど忙しい業務の中で労力と機材を提供して対応しました。

こうした異業種間の取り組みは、今後、省力化、合理化を進めるうえで良きお手本として注目を集めそうです。



スイスイと刈り取るコンバイン

話題集札!

あなたのまわりに明るい話題がありましたら係まで連絡ください。
—連絡先 商工広報係 有線2155番—

三園運動会スナップ



今日は、たのしい運動会。いつも忙しいお父さんも、今日一日はぼくが一人じめ! やさしいお父さん、お母さんに手をひかれ、みんな大満足!

お父さん 僕ここのだよ! 早く見つけてようねーお父さん

あーあ、最後になっちゃったじゃない。クッスン!



Uパックで

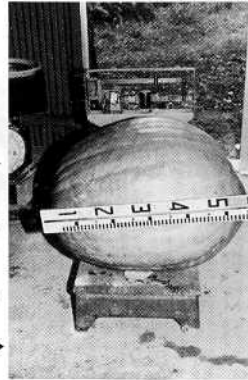
活性化に一役

単品では、商品価値の薄いものも、組み合わせたり、少し手を加えるだけで、りっぱな商品になるものが、村には結構あります。この秋、村の郵便局で企画した「栗おこわセット」もそういったアイデアから生み出されたもので、百七十七個の注文を受けました。

「栗おこわ」を単品で扱わず、柿の葉寿司、生栗・漬け物をセットした点が、消費者の魅力につながったのでしょう。ある郵便局では、敬老の日のプレゼントに、緑茶とメッセージ付きの湯飲みをセットしたところ、これが大当たりして五千個の注文を受けたのも、第三者のアイデアが実った一例です。新しい販路は、私たちの身の回りから開けてくるようです。



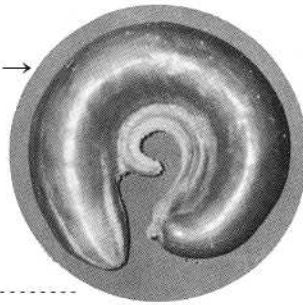
●神付の安江優さんが見つけたこのフクロウ、交通事故で哀れな姿に…。羽を広げると85cmと大型。



●出ました!ジャンボカボチャ。加舎尾藤井たゑさん作のこのカボチャ47kgで只今チャンピオン!



●上親田の安江誉さん宅で、ツツジが花をつけました。10/4



子供を抱えているかのようなこのキューウリ、なんだか槌の子に見えませんか。

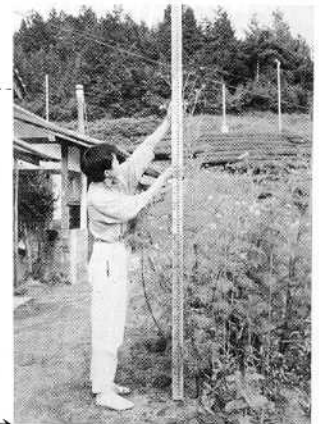


所狭しと持ち込まれた栗おこわ…東白川郵便局にて

これまた風変わりなマツタケ!?どこでどうなったんでしょう。これで2本分なら大もうけですね!



伸びた伸びたコスモスが二百十センチ。加舎尾の樋口章久さん宅ですくすく育ちました。



越原保育園

ストローで吸ったお菓子がママからばくのお口へ！

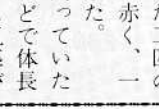
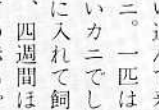
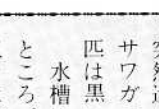
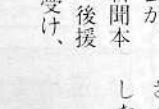
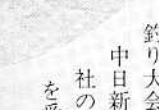
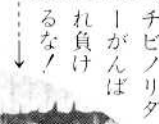


トラックのインナーに花壇があった、走りにくかったけど頑張りました。



私はチャンピオンで優勝した久須見の古田栄美さん。ほくの体、どうなっちゃったの？

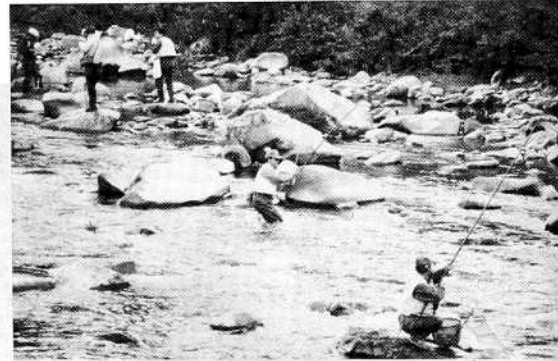
チビノリターががんばれ負けるな！



釣果上々！
秋のマス釣り大会

例年より一週間早い十月十五日、東白川村観光協会と飛騨川漁業組合の共催による第四回秋の清流マス釣り大会が、

中日新聞本社の後援を受け、

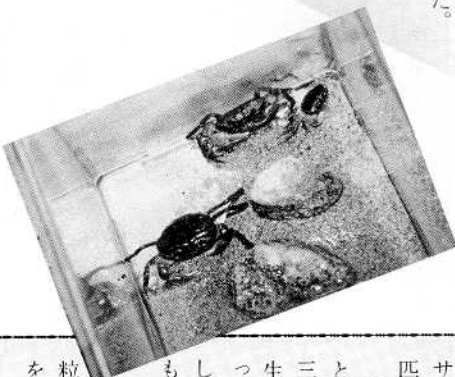


アクシデントの連続 大物マスに悪戦苦闘！

東白川病院下えん堤より下流高橋までの約一橋の間で開かれました。村内外から詰め掛けた太公望は、百五十七人。午前四時の受付けを待ち切れない釣人が早朝から詰め掛け、平地区の婦人らが用意したおでん、うどんに舌鼓み。

六時の開始とともに、五十竿を超す大物に竿が折られる場面も見られました。釣果も上々で笑顔がこぼれていました。

一般の優勝は、六十センチの大物を釣り上げた岐阜市の清水隆生さんで



元気に育て
カニさん親子

平の安江益美さん宅へ、突然迷い込んで来た二匹のサワガニ。一匹は赤く、一匹は黒いカニでした。水槽に入れて飼っていたところ、四週間ほどで体長三センチほどの赤ちゃん五匹が生まれ、その中の一匹が育つて今では二センチほどに成長しています。奥さんは子どものようにかわいがって、一日一回のひなたぼっこと、三、四日に一度三粒ほどのご飯を与えることを欠かしません。

広報に使用した写真は、そのほとんどが白黒写真ですが、希望があれば有料で焼増しを申し受けます。 申込先 役場企画課

おしらせ



全国青少年健全育成強調月間

人権相談所が

開設されます

12月4日

岐阜地方法務局美濃加茂支局と人権擁護委員協議会では、十二月四日から十日までの人権週間中に、次のとおり人権相談所を開設します。

当日は、法務局の係官と村の人権擁護委員中島葵一さん(西洞)が担当します。

ご相談の内容は、土地、建物、相続をめぐる問題、その他日常生活でお困りの法律問題など何んでも結構です。

〔日時〕十二月四日午前十時から午後三時まで。

〔場所〕村民センター(老人の部屋)

山林取得は

有利な公庫資金で

農林漁業金融公庫の林地取得資金制度をご存じですか。この制度は、林令二十五年以来

下の人工林や造林のための土地を取得するために必要な資金を森林組合を通じて融資するもので、金利は最低のもので年三・五割。融資期間は二十五年以内。融資限度額は最高で一千万円となつています。

利用できる方は、林業経営に意欲があるなど一定の基準を満たしている方ですが、現在林業を行っていないサラリーマンや自営業の方でも、知事の認定を受けてこの資金を利用することができます。

詳しくは、役場建設課林務課(有線二一三〇)か、森林組合(有線二〇九三)までお尋ねください。

標準小作料が

据え置きになりました

農業委員会では、三年に一度標準小作料の改訂を行つています。

今年は、その改訂の年にあたり、協議会等で検討した結果、据え置きとなりました。

その理由としては、米価の低迷によるものが主な要因となつています。

◆小作料は次のとおり

区分	小作料の標準額	区分の内容
上田	一八、〇〇〇円	は場整備済
中田	一五、〇〇〇円	未整備田
下田	一三、〇〇〇円	収穫四八〇kg生産 未整備田
上畑	八、〇〇〇円	収穫四二〇kg生産 は場整備済
中畑	六、〇〇〇円	未整備田

二十一世紀に向けて大きくステップ!

文化の日の十一月三日、村制百周年を祝う「立村百年記念大会」と「記念展示会」が、それぞれ東白川中学校校体育館と村民センターを会場に開かれました。

午前九時、夢空間タイムスリップ」と題した記念展示会のオープニングです。会場となった村民センター前では、おおせいの午後十二時三十分からは、立村百年記念大会が中学校校体育館で開かれ、来賓をはじめ村内などから約六百人が「満百歳」のお祝いに駆け付けました。



感動を誘った歴史の居間

進めています=ふるさとづくり

◆工事入札結果(工事名・工事箇所・事業量・事業費・施工業者・完成日・事業主体の順になっています) =敬称略=

【平】向山林道舗装工事・高橋から今井和道(上)・延長295m・1,700千円・丸●産業(株)・11/8・村

【下親田】基幹農道舗装工事・ちびっ子広場~村雲次郎(上交差点)・480m・20,085千円・大脇建設(株)・1/10・県 ▶防火水槽建設工事・小笹地内・40㎡1基・2,900千円・(有)立保土木・1/18・村

【中谷・西洞】基幹農道路面工事・安江政年(下)・樋口敬一郎(上)・16,686千円・(株)芝建設岐阜支店・1/31・県 ▶東橋架設工事・延長14.7m・23,175千円丸登建設・3/15・県

【大明神】防火水槽建設工事・こまもり会館前・40㎡1基・2,900千円・(有)立保土木・1/18村

新春発行

立村百年「特集号」

今回の記念大会、記念展示会をはじめ、十一月十九日に開催する記念祭を含めて、立村百年行事の「特集号」を作成します。発行は、十二月中旬に各組長さんへお届けし、元旦には家族揃ってご覧いただける予定です。



歴史の実りを 未来の糧に

今月の図書



お母さんは宇宙人

橋 幸夫著

妄相、幻覚、徘徊など、異常な行動を繰り返す母と、介護に疲れはてながらも、さらに大きな愛で乗り越えていく橋幸夫一家の物語。痴呆老人の壮絶なドキュメントであり、家族の絆と心の成長を描いた愛のドラマであり来たるべき長寿社会へ向けて熱いメッセージです。是非一人でも多くの人達に読んでいただきたい本として紹介します。

うたかた/サンクチュリア

吉本ばなな著

人を好きになることはほんとうに悲しい。——若い女と男の恋愛を書いたものだが、家族、死などを通して切なく語りかける。心の交渉がもたらす恋愛の結果を現代の若者に似せたかたちで描かれている。芸術選奨新人賞受賞に輝いた作品です。

ふるさとのことば ⑨

☆流れの魚

◎アカモト 体の横に暗藍色の縞のあるきれいな魚、カワムツの異称です。オイカワ属に属し、オイカワより体幅の広い魚です。「アカムツ」「ムツバエ」などともいいます。
◎アカザス ナマズ目ギギ科に属するアカザの別称です。毒針があり、刺されると非常に痛さを感じます。体色は暗赤色か明るい赤褐色をしています。夜、餌を漁る習性があるので、昔は「アカ釣り」といって、家族揃って夜釣りをしたものでした。日本固有種の一属一種で「アカ」「アカネギ」

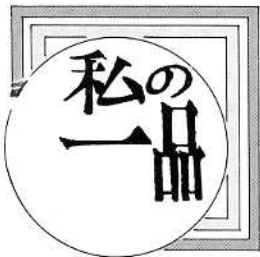
「ネコギギ」は、昭和五十二年に国の天然記念物として種指定されました。「ババ」「ババネギ」ともいいます。
◎ムギナ シマドジョウのことです。日本固有種です。アジメ



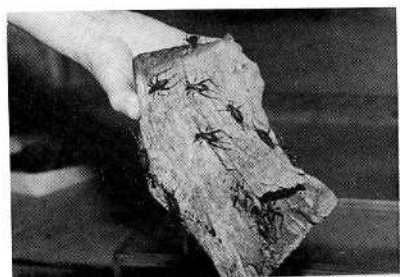
ともいいたい大切にしたい魚です。
◎クロザス ギギ、ネコギギの総称です。アカザに似たところがありませんが、灰褐色で不規則な斑紋があり、アカザよりもグロテスクに感じます。中でも、

ドジョウに似ていますが、それよりも体の縞模様が大きく、体型もずんぐりしています。
◎ドウセン カマツカ、ゼセラなどカマツカ属の淡水魚の総称です。いずれも底生魚で腹側が偏平です。水のきれいな小石や砂のあるところに棲み、おどろくと砂にもぐってしまいます。
◎マタイチ カジカのことをいいます。水が澄み、底がきれいな小石のある川の瀬に棲みます。うろこが非常に細かいので、体表がぬるぬるしています。
◎ザツコ 「ざこ(雑魚)」の変化した語で、ハゼ科のヨシノボリなど溪流の同類の小魚の総称です。「ざっこすき」、「ざっこ釣り」などという言葉は、すでに廃れつつありますが、懐かしい言葉です。

「こんにちは」と玄関の敷居をまたぐと、「リンリン」と羽を振るわせてあいさつをするスズムシ……。普通とどこか違って



すずむし 21代目「鈴虫」

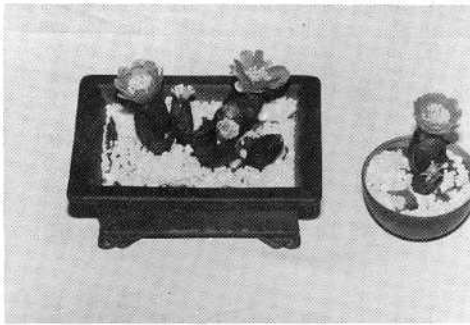


ちづさんの手にまつわるスズムシたち

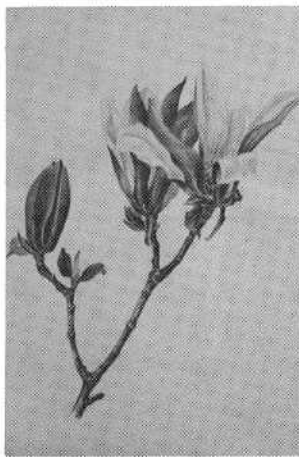
写真のスズムシは、奥さんのちづさんが飼い始めて、二十一代目になります。ちづさんとスズムシの出合いは、東白川村母子センターが取り持つ縁でした。昭和四十三年六月のこと、三男が出産した祝いにと、助産婦の安江とくよさんから雌雄つがいのスズムシ一組をもらったのがはじまり。その後、一度も絶やすことなく毎年何百という数のスズムシが誕生しています。これだけの数があると、美しい音色にはほど遠く、大合唱に戸を締め切って寝ることもあるとか。その多くは、ほしいという近所の人にあげたり、宅急便で遠い知人に送っておられますが、この夏子供たちの教材としても大いに役立ちました。日課といえば、毎朝一回、朝露のかわりに霧吹きで水を与えることと、三日ごとに新鮮な野菜に取り替えることだそうです。特に、削りぶしと魅は、毎日切らさないように与え続けます。カルシウムを補う目的もありますが、雌に食べられてしまう雄の寿命を、少しでも伸ばしてあげたいという配慮からです。十一月の半ば、雄はわずか一匹となり、やがて雌も二十二代に望み託して息絶えます。

電話の音にもリンリンと応え、有線放送が始まるうものなら負けじと音をたてるほど、人間社会になじんでいる様子。

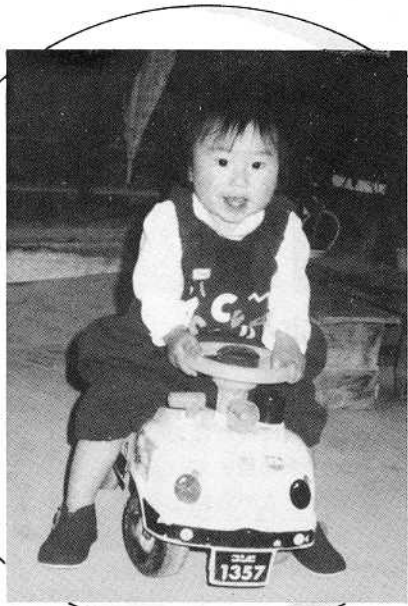
私の作品



▲福寿草＝蘭手芸
安江 幸さん(桧山)



▲木蓮(水彩画)
今井 和さん(大沢)



大坪 里奈ちゃん(一歳↓下親田)
久好さん・ひとみさん(長女)

すくすく育て



▶手芸
田口ももゑさん

(加舎尾)

短歌



あなたの作品をお寄せください。
・初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します。
・毎月20日まで、神土伊藤重雄宛に出してください。

- 肌寒むを感じる旦(はした)テレビはも初冠雪の富士を映せり
早瀬 勇造
- 刈り株を祀る栗飯供へたる田の神様は苦むしにけり
田口 巽午
- 石碑は寛政四年血場跡に傾きて立たす馬頭観音
安江嘉久一
- 喜びも哀しみも深かりし三十年東白川わが村となる
小池 弘子
- 久々に晴れ上りたる秋天に綱引きの子らの声は拡がる
田口 一枝
- 老僧のねもころに説く由來聴き後より詣す稲葉一鉄の墓
伊藤 重雄
- 紫陽花の花弁に蜂のあそぶ昼庭の手入れす蒼空の下に
安江 龍玉
- 草を焼く中に紫蘇の穂交り居て軍手に仄かに残るうつり香
今井 かな
- 色褪せしがまきり小枝に下ること命果てたり今朝の寒さに
安江 節子
- 白川の護岸工事の川岸の石のはざまに彼岸花咲く
伊藤 美枝
- むなしさの風通りぬけ透明になりつつわれの空は秋なり
小林 道子
- 朝明けの鯉をねらひし馳さへ追へば振向く顔のやさしき
安江 澄
- 八階の明るき部屋に夫と我言もなただ海眺め居り
安江 幸
- つゆくさの藍の眼に沁む野の路に今朝新秋の日光あまねし
小池きぬゑ
- 鈴虫を探すをやめてそっと耳をすましつつわれ孫にささやく
安江すみよ
- 恋越しの谷川べりの一つ葉の紅葉あざやかに秋雨の降る
早瀬 久子
- 行き交いの車の埃りに咽びつつ毎朝五キロのジョギング励む
安江 守平
- 百年の歴史を誇る村の旗今平成の空にはばたく
安江 香
- 百年祭でめでたく済みぬこれ以上過疎にせぬのが村政の鍵
山川 潤
- 冬暗れの空に放たれ所在なき昼の月影透くばかりなり
田口 良三